



さくら

SAKURA

さくら創刊号

平成16年12月21日発行



目次:

「さくら」創刊に寄せて	1
さくら聖誕祭のタベ	2
秋の観楓旅行	3
スタッフ紹介	3
オリンピック発祥の地 アテネに日の丸満開	4
イルミネーションに 飾られて	5
ヒポクラテスの誓い	6
医の倫理綱領 さくらクリニックの五常訓	6
さくらクリニック 一層の発展と親睦を	7
さくら腎友会 活動報告	7
お知らせ 編集後記	8

「さくら」創刊に寄せて

院長 蜂谷 哲也

此の度、内外の皆さまからの、予てよりお寄せいただいていた御示唆により、「さくら」を漸く、発行するはこびとなりました。

「さくら」は、「さくらクリニックでの日々の出来事とお知らせ」をお伝えし、ご連絡申し上げる情報紙・広報誌の類ではありますが、それ以上に患者各位の皆さん・そのご家族の皆さんと、さくらクリニックの全従業員との間の質実な懸け橋となりますことを願っております。

昨今の医学・医療の分野は、技術的にはますます高度化・専門化の一途をたどり、所謂、デジタル化指向の波にのまれてしまうかのようにも見受けられますが、一方、人間は有史以来5000年、個々人の心身の誰一人、どの臓器一個、示される症状のどれ一つ、をとってみても同じものではなく、将にアナログそのものであり、個々の人間としての尊厳性も其処にあるようにも思われます。

わたくし共の「さくらクリニック」は、外来透析65床・入院病床19床と小規模であり、従業員も全50人足らずのささやかな診療所(クリニック)施設ではありますが、医療を担うその社会的責任は当然のことながら他の多くの病医院と同様、まことに重大であり、それに恐懼すればこそ、全従業員は患者各位の皆さんとご家族の皆さん共々、互いに切磋琢磨を常として、より良い医療を目指して怠らず努めなければなりません。

この小片の紙誌「さくら」が、単に「患者側と医療側の意思疎通を図るために」という抽象的な名目におわることなく、「誠意を尽くして医療を担う立場の者」と「信頼して医療を受容する立場の者」とが僥倖にも渾然一体となって、日々の難渋に対応していく事への道標灯の一つともなればと祈念しております。亦、心を新たに、「ヒポクラテスの誓い」、「医の倫理綱領」そして「さくらクリニックの五常訓」を後掲させていただき、それらを範として日々努め、務めさせていただきます。

以って、内外を問わず多くの方々のご教示ご賛助をいただきたく、心よりお願い申し上げます。





さくら聖誕祭の夕べ(クリスマスの集い) さくら吹雪の会主催

12月19日(日)、さくらクリニック・ロイヤルホールに於いてさくら聖誕祭が催されました。クリスマスにちなんだ催しは、さくらクリニックの行事としては初めての試みであり、開催が正式決定されたのが11月下旬と急な計画であった為、その準備はもちろん参会者も少ないのではと懸念されましたが、案ずるよりは生むが易しで140名前後の参加を頂きました。参加者の対象が、さくらクリニックの入院および外来通院の患者さんとその家族、加えてさくらクリニックの職員とその家族と限定されたものでしたが、結果的には噂を聞きつけて近隣の福祉施設からの入居者の参加もあり、ホールは大入り満員となり、2階席も取り合いとなりました。

午後1時から会は看護部、松山さん・谷口さんの司会で始まり、最初に主催するさくら吹雪の会々長であり89歳の栗林清長老の挨拶に始まり、さくら腎友会々長の大西重治さんにより、お子様用シャンパンで乾杯の音頭がとられました。アトラクションは、初めに小林和子さん主宰のトリオコーラスによるクリスマス特集で、「ジングルベル」で幕を開け、最前列に陣取った30名余もの幼児・小児が声を合わせて歌うなどは佳境に入りました。特に相馬由美子さんのお孫さんの藍瑞樹ちゃん・紗彩ちゃんによるデュエット「あわてんぼうのサンタクロース」は可愛らしかったです。

続いて腎友会役員でもある久保隆洋さんの奇術が始まり、いつになく紳士然とした手品師の衣装に身を包んだ久保さんの魔術に、最前列の子供たちは目を皿のようになって楽しんでおりました。

餅つき大会がクリニック玄関先で始まり、普段持ち上げたことのない重い杵を振り上げ、湯気の立つ出来立てのきな粉餅を頬ばりました。出店には他にも、「綿あめ・やきそば・さくらピザ・カボチャの入った冬至しるこ」等がふるまわれ、皆さ



サンタさんから子供たちへのプレゼント

んはドライウエイトの調整に苦慮したと思います。

続いては、永山一男さんが主宰する本格的なロイヤルバンドのバック演奏で歌謡大会が始まりました。出場者はいつものカラオケと違い、多少の戸惑いを見せながらも興奮して歌っておりました。当クリニック顧問の深沢規夫先生も「濡れ唇で2曲も歌う」などまるで芸能人そのものになりきって歌っておりました。また蜂谷院長も「もしもピアノが弾けたなら」を披露して満座の注目を浴びました。

休憩をはさんで、大野昇さん主宰の「四街道でござる社中」による中国風手品と日本舞踊、ヒョットコ踊り等があり、やんやの喝采を浴びました。

さて、いよいよキャンドルサービスとクリスマスケーキの時間になりました。当クリニック栄養部長の戸田さんが作った2m50cmもの大ケーキの頂点に、さくら吹雪の会々長である栗林長老により灯りがともされ、続いて早川海斗くん(3歳)と坂本恵ちゃん(8歳)の幼カップルにより点火され、いよいよサンタクロースの登場となりました。男のサンタさんは手品師の久保隆洋さん。女のサンタさんはご存知、看護師の境野さんで、2人ともプレゼントのいっぱい入った重そうな袋を引きずって登場しました。子供達一人一人の名前が呼ばれ、無添加食品の袋菓子と、本人希望のプレゼントが手渡されました。このあたりから場内は、更に喧騒の渦に巻き込まれ、喜びはしゃぐ子供達の声でサンタさんの呼び声はかき消されて、てんやわんやの状態となりました。関連会社や患者さんのご家族(加藤さん)から提供して頂いた品々を中心に「一家一品」の当たりくじびきも行われました。更に大人にはサンタの靴下ならぬアンゴラの男女ペアのソックスが一人一人にプレゼントされました。

閉幕はサライ改題の「さくら吹雪の詩」の大合唱となり、ホール天井から万余のさくら色の紙吹雪が乱れ舞う中で楽しいクリスマスの集いを終わりました。

ご参会の皆さん、本当にありがとうございました。またロイヤルホールで来年もお会いしましょうね。



コラボレーションも楽しいクリスマス特集

昔とった杵?の餅つき



秋の観楓旅行【患者さん・職員による懇親温泉旅行】



養老溪谷にて

11月20・21日の土日を利用してさくら吹雪の会主催で九十九里浜「太陽の里」一泊二日の温泉旅行に出かけました。参加者は89歳の栗林長老を初めとして、患者さんは御夫婦3組を含め8名・職員10名の計18名でした。

温泉で心身ともに癒し、夜は全員興に乗り午前2時半頃まで歓談してしまいました。(院長先生ごめんなさい)

翌日は養老溪谷へ紅葉狩りに出掛け、深紅の万葉の輝きに一同声を上げ通してました。十割そばの昼食を終えて楽しい旅行の散会となりました。

来年もこの時期に観楓旅行を予定しております。

是非みなさん、一緒に行きましょう。

スタッフ紹介

スタッフによる自己紹介です。

毎号、少しずつ掲載していきますので楽しみに！

私の選んだ道

技士部 横田光司

将来何になろうかと悩んでいた高校三年生の夏、ある記事が目にとまった。それは、医療技術・装置の急速な進歩に伴い、臨床工学技士の必要性が大きく取り上げられる内容であった。その時、機械的分野からでも医療の一翼を担える職業であり、もともと機械好きだった私にはこれが「天職」だと思い、臨床工学技士を目指し始めた。

さくらクリニックにお世話になり、皆様よりいろいろと教えて頂いて、透析というものが見えてきたような気がします。「天職」と信じ、頑張っていきたいと思いますので宜しくお願い致します。



透析室勤務になって

看護部 境野陽子

私は富山県出身です。しかも双子の姉です。妹も看護師で、内容は違うけど分からない事は電話で話し合っています。同じ富山県出身の方がいたら私と一緒に県人会を開きたいのですがどうでしょう？

ところで、私は看護師になって二十数年ですが、その中でも透析年数は十年位です。機械に弱い私が出来るとのかな、という不安を抱えながら今日まで来ました。患者さんの透析年数には及ばないけど、患者さんの苦しさ、辛さ、出来ない所、分からない所、一人一人の気持ちを理解してあげられる私でありたいと思っています。これからも色々な面で大変ですが、皆様の期待に添えるよう頑張りますのでよろしくお願い申し上げます。

共に

看護部 高久暁美

私の故郷は、福島県の会津若松市です。会津若松は城下町として知られ、歴史のある場所として静かな佇まいを匂わせています。その中でも白虎隊は有名で、悲劇の舞台として語られ、多くの観光客が訪れています。

さて、クリニックに勤めはじめて早七年を過ぎようとしています。医療を通して多くの患者様との出会いがありました。その中でいろいろな多くの事を学ばせて頂きました。看護する立場なのに、反対に励まされ、慰められたことの方が多かったような気がします。

初心忘れず、感謝の気持ちを持ちながら、自分自身もっと向上できるよう努力し、皆様のお役に立てるよう、共に歩む医療を目指しながら頑張っていきたいと思っています。これからは宜しくお願いします。

手記：オリンピック発祥の地アテネに日の丸満開(日本柔道は本当に強かった)

さくらクリニック顧問 医学博士 深沢 規夫 先生
(全日本柔道連盟医科学特別委員・救護部長)

平成16年8月12日午前9時50分、快晴の成田空港を後に、目指す目的地アテネに向け、飛行機(ルフトハンザドイツ航空)は快調に飛び立った。フランクフルト・ミュンヘン経由で、時差約7時間、深夜のアテネ空港へ午後22時50分無事到着、直ちに迎えの車で宿泊地オモニア広場のホテルアラシアに着いた。先着の国士舘高校監督・岩淵公一氏と同室で10日間の滞在が始まった。13日午前中、アテネ近郊のヴィロナスにあるパブリックジムの柔道場に、同行の関根忍氏(全柔連審判委員長、金メダリスト)藤原敬生氏(全柔連総務委員、全日本柔道選手権2位)ら4人で直行、男女選手の調整練習を見学、すばらしい成果を期待しつつジムを後にした。午後からは地下鉄を利用し、炎天下40度を上回る痛いまでの暑さを感じながら、プラカ地区アクロポリス(高い丘の上の都市という意味)に足を運んだ。帽子、サングラスは大変役立った。ギリシャ古代遺跡のハイライト、人類文明の遺産、それがここアクロポリスで、その代表がパルテノン神殿である。ドリア式の石柱に囲まれ、雄大な姿を見せて建っている。(横31m、縦70m、柱の高さ10m)15年の歳月を費やし、紀元前438年に完成した。アテネの守護神アテナを祀ったこの神殿は、天井を除きすべて加工大理石を重ね合わせて建てられ、遠くからだ冷厳な感じだが、ある種の柔和さが感じられるのは、2500年の長い歴史、そしてオリンピック発祥の地という所以だろう。改めて市内を一望出来る見晴し台より荘厳なギリシャ文化を身近に感じながら、明日から始まる柔道ニッポンの優勝を祈念した。

14日よりアテネ市内北西の郊外にあるアノシアオリンピック屋内ホールで柔道競技が開始された。初日は期待どおり女子48kg級谷亮子、男子60kg級野村忠宏が危なげなく金メダルを獲得し、中央表彰台に高々と日の丸の旗を掲げた。五輪4回目の谷は、シドニーに続く二連覇、田村で金、谷で金の宣言を実現し、野村は96年アトランタ以来三連覇の偉業を成し遂げた。日本柔道がオリンピック発祥の地ギリシャで絶好調のスタートをきり、同時にそれが発火点となり日本16個の金メダルに輝いた初日もあった。

谷は今大会の日本選手が獲得した金メダル第1号で、夏季五輪通算99個目、野村は丁度100号のメモリアル金メダルで、柔道日本を象徴するかのようなスタートであった。

会場は多くの観客で埋まったが、中でも初日期待選手出場で、日本人応援団が目立ち、日本でも深更、テレビに映し出される日の丸と国歌演奏に、限らない数の人達が私と同様感動を味わい、感涙を流したことだろう。

酷暑にうだる日本列島はいま、オリンピック一色に包まれ、深夜の興奮が続き、寝不足は現地にいる時差ボケの我々とあまり変わりないだろう。それにしても柔道代表選手の活躍は見事の一言に尽きる。初日金独占！谷(48kg級)二連覇、野村(60kg級)三連覇、2日目横沢由貴(52kg級)銀、初出場内柴正人(66kg級)金、3日目は男女共中休みの日になった。女子(57kg級)日下部、男子(71kg級)高松共に調整不調で敗退、4日目女子(63kg級)谷本歩実が一本勝ちで金、感動の連続だった。5日目上野雅恵(70kg級)金、泉浩(90kg級)銀、6日目井上康生が敗退！何故だ！日本柔道界に衝撃が走った。午後にチケットを買った日本人が帰ろうとしたので、女子阿武の為に残って応援して下さいと頼んだ一幕もあった。私も目前で2試合とも精気なく一本負けをした井上選手を見て、一瞬頭の中が真っ白になったのだから、日本中もきっと敗戦のショックはいかばかりか計り知れないものを感じた。



第一号の金メダルに満面の笑み
谷 亮子選手と深沢先生
(アテネオリンピック柔道会場にて)

外国選手が井上を研究し、組ませない柔道で対応するのは当然、しかし悪い時には悪い事が続くもので、くじ運も恵まれず、1回戦から出場し、一瞬目を疑いたくなるような蒼白な井上選手を見てしまった。4回戦ファン・デルヘースト(オランダ)の時、相手は逃げ腰そして片袖を握る。(反則)更に時間稼ぎに帯を解き、鼻血でドクターを呼び、延々と時間を稼ぐが審判は反則をとらない。しかしそれらをはねかえして一本をとるのがいつもの井上選手だった。

敗戦の第一は「調整の失敗」、第二は「井上神話のプレッシャー」、ヤワラちゃんと違って彼自身悪いなりの調整法や戦法を選択出来なかった。課題は残った。井上自身が口にしたように、今回の敗退をバネにしてこれからの柔道人生にどう生かすかが最も重要だ。彼を応援するすべての人々は、私を含めて静かに見守ってあげたい。しかしそれを、五輪の魔物を退治してくれたのが阿武教子(78k級)金であった。「五輪の借りは五輪で返す」を地で教えてくれた。

井上よ！北京で返せ、挫折こそ人生訓だ、北京で頑張れと今一度叫びたい。

最終は男女最重量級ダブル金で有終の美を飾った。塚田真希(78k超級)大逆転の金、鈴木桂治(100k超級)、黄金の左足技で金、88年ソウル五輪で斎藤仁が制して以来16年ぶりの快挙である。「始めよければ終りよし」の格言通り、金で始まり金で終わった日の丸満開の柔道日本選手団の活躍であった。

省みるに横沢由貴(52k級)の、残り10秒前サボンを袖釣り込み腰一本の大逆転の銀、そして決勝で史上初、女子(78k超級)金メダル塚田真希の後袈裟固めの大逆転は、今大会を通じてのベストマッチに上げられるだろう。日本女子重量級が初めて世界の頂点に達した瞬間でもあった。

勝って兜の緒を締めよ！これから又北京オリンピック大会に向け、打倒日本を目指して世界各国の選手は牙をむいて襲いかかってくるだろう。勝利はエネルギーだ。北京でも負けないぞ！「精力善用・自他共栄」の精神に則った日本柔道の、更なる発展を夢見つつ、アテネの感動を胸いっぱい帰路の途についた。



女子柔道金メダリスト、谷 亮子選手から
さくらクリニックの患者さんへの
激励の色紙(ギリシャにて)

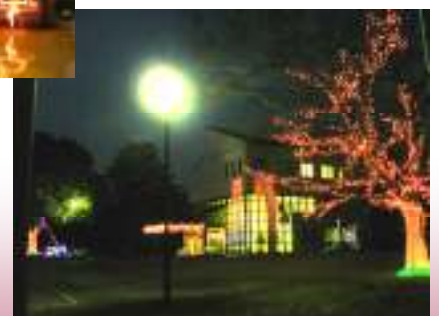
イルミネーションに飾られて

クリニック独自の年末年始イルミネーションを今年から始めました。すべて手作りではありますが、皆さんから綺麗ねと好評を頂いております。

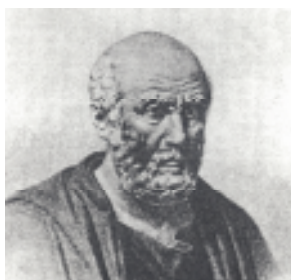
お時間がありましたら皆さんどうぞご覧になってください。

期間は新年の1月5日まで。

連日、日没から午後10時30分まで点燈しています。



ヒポクラテスの誓い



ヒポクラテス

(紀元前460年～377年頃)
ギリシャの医師で西洋医学の祖といわれ、近代医療への道を開いた。世界で最初の医学校を設立した。疾病の原因として四体液説を広めた。

『医神アポロ、アスクレピオス、ヒュギエイア、パナケイアをはじめとするすべての神の名にかけて、私は誓います。

また私の能力と判断力の限りをつくして、この誓いを守ります。

医術を私に授けてくれた人を親と思い、生計を共にします。その人がお金に困ったときには私のお金を差し出します。その人の子供を自分の子供と考えます。その子供たちが望むならば、お礼も契約書もとらないで彼らに医術を教えます。

私の子供たち、先生の子供たち、さらには医師の掟に従って誓約し、契約書を差し出した弟子達には、医師としての心得・講義・教訓などをすべて授けます。

自分の能力と判断力の限りをつくして患者

に治療を施します。これは患者の幸せを願ってすることです。人に害を加えたり不正をはたしたりするために医術を使いません。だれに頼まれても致死薬を与えたり与えるように助言したりはしません。婦人に妊娠中絶をほどこすこともいたしません。清く生きて自分の医術を守ります。

男女を問わず、自由民であるか奴隷であるかを問わず、彼らの身体に対してみだらなことは決まっています。

私がこの誓いを固く守って破らない場合には、すべての人達から良い評判を受け、人生と医術を楽しむことをお許しください。これとは逆に、この誓いを破ったりそれにそむいたりした場合には、これと逆の報いをお与えください。』

ヒポクラテス全集(全72巻)より

医の倫理綱領

医学および医療は、病める人の治療はもとより、人々の健康の維持もしくは増進を図るもので、医師は責任の重大性を認識し、人類愛を基にすべての人に奉仕するものである。

1. 医師は生涯学習の精神を保ち、つねに医学の知識と技術の習得に努めるとともに、その進歩・発展に尽くす。
2. 医師はこの職業の尊厳と責任を自覚し、教養を深め、人格を高めるように心掛ける。
3. 医師は医療を受ける人々の人格を尊重し、やさしい心で接するとともに、医療内容についてはよく説明し、信頼を得るように努める。
4. 医師は互いに尊敬し、医療関係者と協力して医療に尽くす。
5. 医師は医療の公共性を重んじ、医療を通じて社会の発展に尽くすとともに、法規範の遵守および法秩序の形成に努める。
6. 医師は医業にあたって営利を目的としない。

社団法人 日本医師会

さくらクリニックの五常訓

1. 常に、誠意を尽くして、万般の事に当たります。
2. 常に、学習能力を高め、知識と技術の修練に努めます。
3. 常に、実務実行に際しては、確認作業を徹底し、「共済と感謝の心」で適切に履行します。
4. 常に、「ひやり・はっと」と、「事故・過誤」の意識を持ち、その報告を自ら進んで行い、再発の防止に役立たせます。
5. 常に、医療組織体に属する自己を、厳正に認識し、自他共に「和して同ぜざる」を旨として、謙虚な言行を以て務めます。

さくらクリニック職員一同

平成16年12月15日

さくらクリニック 一層の発展と親睦を

さくら腎友会会長 大西 重治

早いもので、さくらクリニックが開院以来11年になり、この度、さくら新聞の第一号が発刊されたことは、クリニック患者にとって、当院開院以来の待ちに待った出来事の一つであり、さくら腎友会を代表して心よりお祝い申し上げます。

さくら腎友会はこれまでも活動の質を落とすことなく、院長をはじめスタッフの皆さんの絶大なるご支援のもと一生懸命頑張ってきました。残念なことに、ここのところ腎友会の諸行事活動への参加が少なくなってきており、千腎協へ入会しているさくら腎友会員の率も25%~30%となっております。これでは当院全体の評価が落ちてしまうことになりかねません。立派なスタッフと施設に恵まれているのですから、これまで以上の活動を続けるためにも、より多くの患者さんが一丸となり諸活動に参加していただきたいと思っております。皆さんで力を合わせて、他の施設に負けないよう、院長やスタッフの皆さんを信じ、安心して楽しい透析生活をし、腎友会の諸行事に積極的に参加して、一人でも多くの話し友達をつくり、親睦を深め、そしてさくら新聞の発刊を機に、さくらクリニック全体を、大いに盛り上げようではありませんか。以上お願いばかりでございますが、どうかご協力をよろしくお願い申し上げます。

さくら腎友会 活動報告

秋の日帰り旅行 ー油壺・城ヶ島ー

さくら腎友会好例の「秋の日帰りバス旅行」が、10月17日(第三日曜日)に催されました。参加者は大西会長、蜂谷院長はじめスタッフ・家族を含め総勢76人となり、大型バス2台で当クリニックを朝8時に出発し、一路三浦半島へ向かいました。途中、油壺マリンパークで水族館を見学し、昼食の油壺では大広間に全員集まりカラオケ等大盛り上がりな大宴会でゆっくと過ごしました。その後、城ヶ島を散策し、遠洋漁業とマグロで有名な三崎港の海鮮市場で新鮮な魚や一夜干しの干物などのお土産を求め、全員無事に帰路につきました。

本当に楽しい秋の1日でした。今回参加できなかった皆さん、次回是非一緒に参加してみましょう。



城ヶ島港にて

クリニックからのお知らせ

●年末年始の透析入室時間について

年末年始の入室時間は次のようになります。
(12月30日～1月3日)

Iクール	7:30 ~ 9:00
IIクール	11:00 ~ 15:00 (1/1は11:00～12:00まで)
IIIクール(12/31、1/3)	は休診となります

※変更がある場合は早めにお申し出下さい。

1/4より通常通りの時間帯となります。

●年末年始の送迎について

通常の体制にて送迎を行います。



クリニック前庭のイルミネーション

- 「中越地震・災害募金」は現在皆様のご支援によって合計金額31,040円となりました。この募金は日本赤十字社新潟支部へ寄贈させていただきます。本当にありがとうございました。新潟の被災者の皆様が良いお正月を迎えられますように、お祈りしております。

編集後記



さくらクリニックの広報誌「さくら」の発刊にあたり、編集委員を募集したところ、総務部の若手職員を中心とした構成となりました。文字通り未経験者のメンバー揃いです。最初から全て手作りのため試行錯誤の連続でした。しかしながら、多くの患者さんや他のスタッフの協力を得て、更に院長のアドバイスの基にやっと創刊号の発刊にこぎつけ、ほっとしております。本当にありがとうございました。まだまだ未熟な内容ですが、次の発刊に向けてより良い広報誌となるべく努力いたしますので今後も暖かく見守って頂きたいと思えます。なお、広報誌「さくら」に関してのご質問・ご意見・ご感想、また紀行文・食べ歩き記などジャンルは問いませんので、沢山の寄稿をお待ちしております。紙面を飾る写真・イラスト等もどしどしお寄せ下さい。

編集部員：橋本 和政
粟飯原成一
横田 光司
額賀 裕子
鎌田美穂子

さくらクリニック

腎臓内科・一般内科・外科・在宅医療
人工透析 (HD・HDF・CAPD)
生活習慣病相談・リハビリテーション訓練
外来透析65床・入院応需19床

〒284-0001
千葉県四街道市大日593-1
電話 043(424)1211
FAX 043(424)1007